

グローバル・デリー・プラットフォーム

業績報告書 2024



グローバル・デリー・
プラットフォーム

Jミルク仮訳

GDP 重点領域

2 | 酪農乳業の物語を伝える

12 | エビデンスを提供する



世界の酪農乳業セクターに明るい兆し



世界の酪農乳業セクターの未来は明るくなっています。2024 年は、地球の気候への負荷の限界内で活動しながら、増加する人口に栄養を与えている酪農乳業の重要な役割についてますます認識されるようになりました。牛乳乳製品の栄養面の価値は、栄養や気候に関するいくつかの国際会議で注目を集め続け、世界の食料安全保障を達成する上で、植物由来食品を補完するものとしてますます認識されるようになっていきます。同時に、「**酪農乳業ネットゼロへの道筋**」や「**デリー・サステナビリティ・フレームワーク**」などの活動によって主導した当セクターの環境面での進歩は、農業の持続可能性の基準値を示し続けています。

しかし、課題も残っています。動物由来食品の重要な役割についての誤った情報や誤解が根強く残っており、健全な政策や一般認識に対するリスクとなっています。だからこそ、グローバル・デリー・プラットフォーム（GDP）は、酪農乳業の栄養面、社会経済面、環境面での利点が十分に理解され、世界的な議論に反映されるように、影響力のある世界のステークホルダーと協力するという任務にあたり続けているのです。

GDP 会員の影響力

その進展は、GDP 会員の専門性、積極的関与や連携なしにはあり得ません。会員主導の組織である GDP の影響力は、世界の舞台で酪農乳業のリーダーシップを発揮させる上で重要な役割を果たしている会員の献身在原動力となっています。持続可能性の活動の推進、政策対話への参加、あるいは酪農乳業の「物語」の普及活動のいずれにおいても、会員が GDP の成功の基盤となっています。

本報告書では、2024 年に私たちが共に達成した成果の概要をご紹介します。2025 年に向けて、酪農乳業の素晴らしい物語が、これまで以上に効果的に、より広く、より大きな影響力をもって共有されるように、皆様との連携を深めていくことを楽しみにしています。

ドナルド・ムーア
GDP 専務理事

酪農乳業の物語 を伝える

GDP は、酪農乳業の栄養面、環境面、社会経済面での影響力を統合した
活力ある物語の普及を支援します

戦略的普及活動：世界の食料と農業の物語の構築

2024 年に GDP は、最大級の影響力を持つ重要なステークホルダーとの関係を構築することによって、世界の食料と農業に関する会話を形作ることを目的とした戦略的普及活動を開始しました。この活動は、国連関連機関や様々な国際組織との継続的な協力関係を構築しながら、世界の食料安全保障における酪農乳業の重要な役割を明示し、酪農乳業セクターの全容を伝えることを目的としています。

GDP は、この1年間、企業や組織、意思決定を促したり当業界の将来を形作ることができる発言力の強い人など、産業界と非産業界の双方の聴衆を集めて、「酪農乳業の物語を伝える」ことに注力しました。この積極的な取り組みが、持続可能な食料システムにおける酪農乳業の重要性を高め、農業、栄養、気候変動対策に関する世界的な議論における酪農乳業のリーダーシップを強化しています。

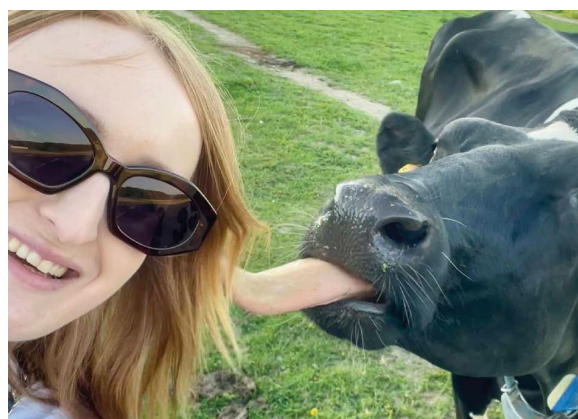


記録的な「世界牛乳の日」への参加数

「世界牛乳の日 2024」は、オーストラリア（A）からジンバブエ（Z）にいたる国々で大成功を収め、6月1日前後の世界中での参加数の記録を更新しました。100カ国以上で企業、組織、個人の参加があり、270万人の参加と9億2400万以上のインプレッションを記録しました。

主な結果

- アルメニアでは同時に7,469人が牛乳を飲む注目のイベントがあり、ギネス世界記録に認定されました
- 酪農家の動画、牛との自撮り、牛乳ひげコンテストなどを紹介する創造的な参加型キャンペーンが多く実施されました
- 牛乳乳製品の栄養面の優位点に焦点を当てた戦略的連携活動や有料キャンペーンが実施されました



「世界牛乳の日 2024」は、
栄養と持続可能性における酪農乳業の役割を称えようとする
世界的な熱意の高まりを示す機会となりました

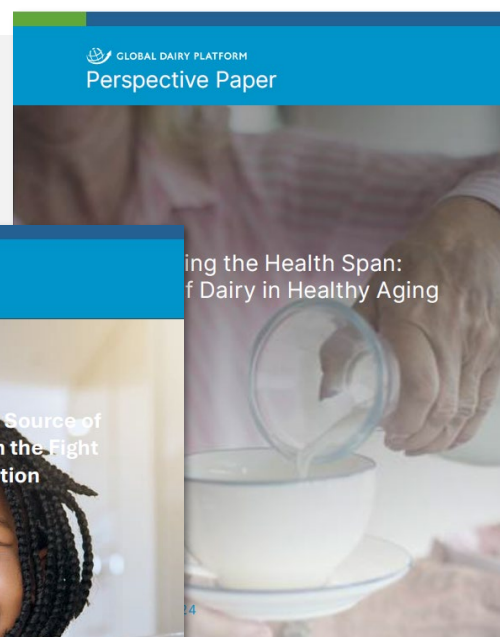
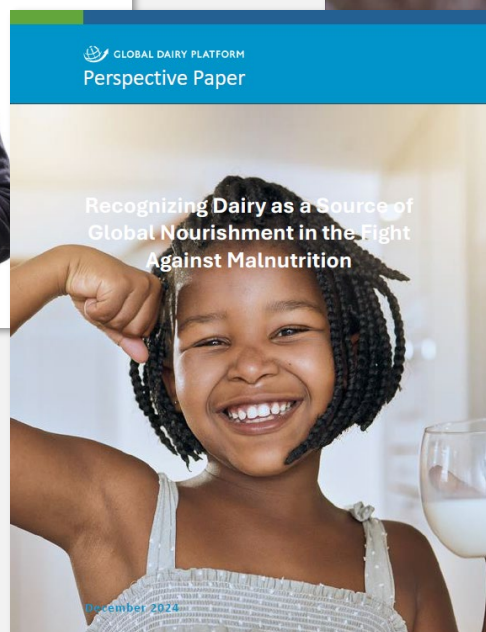
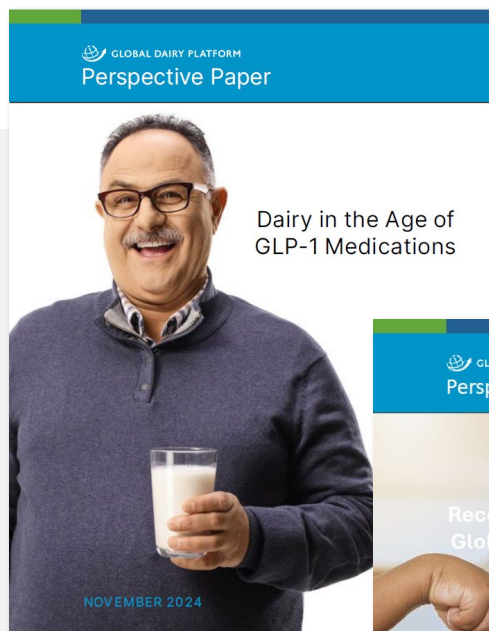
毎月の「GDP 見解書」でのタイムリーな栄養科学的考察

GDP は、2024 年も「GDP 見解書」を毎月発行し、最新の栄養科学情報を説明するとともに、健康的で持続可能な食事の促進とあらゆる形態の栄養不良の改善における牛乳乳製品の役割を考察しました。これらの文書は、実践的な洞察と重要なポイントを示すことで、GDP をこの業界の戦略的リーダーとして位置づけ、業界に対して明確な行動の呼びかけをしています。

最近の「GDP 見解書」で取り上げたトピック

- 栄養面、社会経済面、環境面をすべて考慮すると、低脂肪乳は植物由来飲料よりも持続可能な選択肢であることが研究で示されている
- 牛乳乳製品の消費が、特に低・中所得国（LMICs）の幼児の栄養と健康を大幅に改善することを示すエビデンスがある
- GLP-1 療法を受ける人たちは、食生活に影響が出るため、牛乳乳製品などの栄養素を豊富に含む食品を優先して摂る重要性が高まる
- 適切な栄養を低コストで摂るには、牛乳乳製品などの動物由来食品を食事に取り入れることが効率的で効果的である

「GDP 見解書」では、科学と業界の実践的な側面を結びつけることで、世界の健康と持続可能性の向上において牛乳乳製品が重要な役割を持っていることを明示しています。



国際的に著名な科学者による魅力的なウェビナーを3回実施



牛乳乳製品と糖尿病: アンソニー・ハンリー博士（トロント大学）とオサマ・ハムディー博士（ジョスリン糖尿病センター、ハーバード大学）が、ハイリスクで糖尿病疑いの集団を対象とした研究の結果を示しながら世界的な糖尿病の負担について説明しました。また、世界的にリスクを軽減し、健康状態を改善する食事介入についても議論しました。



高齢者層のための牛乳乳製品: サンドラ・ユリアーノ博士（メルボルン大学）が、健康的な加齢における牛乳乳製品の役割について調べました。博士は、オーストラリアでの説得力のある臨床研究結果を紹介し、適切な牛乳乳製品の摂取が、いかにカルシウムとタンパク質の摂取不足を解消し、高齢者の転倒や骨折のリスクを軽減し、大幅な医療費削減に貢献するかを示しました。



乳マトリクス: コニー・ウィーバー博士（サンディエゴ州立大学）が、乳マトリクスの重要性、牛乳乳製品に含まれる栄養素の特有な相互作用、そして、乳マトリクスの健康への影響についての考察を紹介しました。

これらのイベントは、慢性疾患予防、人口高齢化、手頃な価格の栄養といった世界の喫緊課題への対処における牛乳乳製品の役割について、理解の深耕と「対話」を促しました

GDP は、研究者、政策立案者および業界リーダーの連携を促すウェビナーを実施したことで、世界中の持続可能で健康的な食事の基礎としての牛乳乳製品の地位を向上させる GDP の重要な役割を再認識しました。



ナリッシュ会議 2024

GDP は 10 月にパリでナリッシュ会議 2024 を開催し、酪農乳業の将来に関する有意義な対話を促しました。

ナリッシュ会議 2024 では、「変化する世界の中の酪農乳業」をテーマとして、酪農乳業セクターに影響する喫緊課題について議論しました。以下のようなプレゼンテーションが行われました。

- 欧州委員会局長のピエール・バスコー氏による、食料安全保障における農家の重要な役割と EU の農業政策の将来についての講演
- マッセイ大学リデット研究所のポール・モーウン教授による、GDP などからの資金援助のもとで数年間実施した研究で得られた「タンパク質の視点」から見た食料の持続可能性についての講演
- EAT 財団 科学責任者のファブリース・デクラーク氏による、EAT-Lancet 1.0 に関するフィードバックと、2025 年 10 月発表予定の EAT-Lancet 2.0 についての講演

多数のパネルディスカッションも行われ、地政学に関するパネルディスカッションでは、欧州、北米、アジア、オセアニアなどで起きている主要な選挙や貿易紛争の潜在的な影響を分析する専門家が登壇しました。他に、Future Fit Dairy Initiative の始動、酪農乳業セクターの今後の 5~10 年に関する CEO の見解、イノベーション、酪農家の見解についても議論されました。

ナリッシュ会議 2024 は dsm フェルミニッヒ社の協賛によって開催されました。



GDP-IMP 会議

4 月には、GDP は IMP（International Milk Promotion Group）と共に、主要な酪農乳業企業/団体のマーケティングやコミュニケーションの専門家をフロリダ州マイアミに招集しました。この会議では、食料と農業に関する世界的な「物語」の形成と、栄養、生計、環境の持続可能性における酪農乳業の重要な役割に焦点が当てられました。

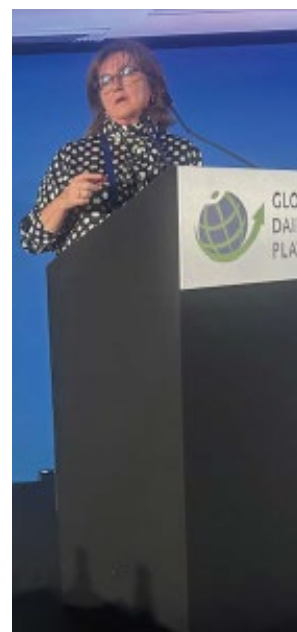
会議では、フォンテラ社、デリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ社、アーラ・フーズ社、ロイヤル・フリースランドカンピーナ社、CNIEL、デンマーク酪農委員会、デリー・オーストラリア、デリー・マネジメント社などの企業や団体から参加した専門家による講演やパネルディスカッションが行われました。

GDP 年次総会

10 月に GDP 年次総会がパリで開催され、専門家のプレゼンテーションとパネルディスカッションにより、酪農乳業セクターの総合的な貢献について検討されました。主な内容は以下の通りです。

- アイルランドのコーク大学のマイレッド・キーリー教授による基調講演「なぜ栄養について話し続ける必要があるのか」
- エルネスト・レイエス氏（GDP 酪農開発セクター長）による報告書「酪農乳業と社会経済発展: データが示すエビデンスとは?」の発表
- バディ・ベスベス氏（FAO 飼料遺伝部門持続可能動物生産チーフ）が「持続可能な畜産変革フレームワーク」について紹介し、コ・バンク社のコーリー・ガイガー氏が司会を務めるパネルディスカッションでレイエス氏と議論しました。
- 歓迎レセプションでは、新作ドキュメンタリー「牛なき世界」の特別上映が行われました

今年のイベントでは、持続可能で包摂的な未来に向けて前進するために酪農乳業セクター内のコラボレーションとイノベーションを促進するという GDP の方針が強調されました。





気候週間ニューヨークでの GDP

気候週間ニューヨークにおいて、GDP は酪農乳業のカーボンフットプリントの削減と持続可能性の改善に関する重要な議論に積極的に参加しました。GDP は 2 つのイベントを共催し、また、いくつかのイベントに参加し、「酪農乳業ネットゼロへの道筋 (P2DNZ) 」に関する最新情報を報告し、酪農場での革新と技術主導のメタン削減戦略を強調しました。

主な貢献

- GDP 専務理事のドナルド・ムーア氏は、「カトリック救援サービス」と「ファーム・ジャーナル・ファンデーション」が主催した国連総会のイベントで講演し、世界の栄養における酪農乳業の重要な役割と、環境への影響を軽減するための業界の進歩を強調しました
- GDP は、「持続可能な牛肉のためのグローバル・ラウンドテーブル」との共催イベント「メタン削減に取り組む畜産」を開催し、アーラ・フーズ社、フリースランドカンピーナ社、dsm フェルミニッヒ社、エランコ社、アルケア・バイオ社の業界リーダーが登壇しました
- 元 GDP 運営委員会メンバーのジェイ・ウォルドヴォーゲル氏は、「豊かな牧草地: 気候、自然、人々のための持続可能な畜産の解決策」で講演し、「アフリカの酪農乳業開発 (DNA)」と P2DNZ について紹介しました

GDP は、会員と酪農乳業大使（デリー・アンバサダー）にも参加を促し、気候変動対策と持続可能な農業変革における酪農乳業のリーダーシップを強く示しました。

国連

GDP は、2024 年に国連の機関や各種会議との連携を深め、栄養、生計、環境の進捗における酪農乳業の重要な役割をアピールしました。

これらの取り組みは、持続可能な食料システム、経済の強靱性、気候変動対策を促進することで、酪農乳業セクターと「持続可能な開発目標 (SDGs)」の整合性を強化しました。

多数のステークホルダーとの連携の強化

GDP の国連との取り組みは、連携による変革力を強く示し、これにより、酪農家や業界のステークホルダーにグローバルな政策議論の場における発言権を確保しました。主な参加は以下のとおりです。

- ケニアのナイロビで開催された国連環境総会
- FAO パートナリシップ - FAO は、GDP との覚書に基づく活動として、酪農乳業の社会経済への影響に関する報告書やハイレベルな国際イベントを含む、様々な活動に協力しました

FAO への主な関与

- COAG 畜産小委員会 (6 月、ローマ) - GDP は複数の主催セッションで座長と講演者を務め、東アフリカ、ラテンアメリカ、アジアにおける酪農乳業の環境面での進歩と持続可能性への取り組みを紹介しました
- FAO 食料安全保障委員会 (10 月、ローマ) - GDP 専務理事のドンアルド・ムーア氏と GDP 酪農乳業大使のアンディー・マクファーレン氏がタンザニアの酪農乳業開発に関する議論に参加し、タンザニアでの酪農乳業開発活動がいかにより幼児の栄養を改善し、牛乳の入手性を高め、女性リーダーに力を与えたかを強調しました

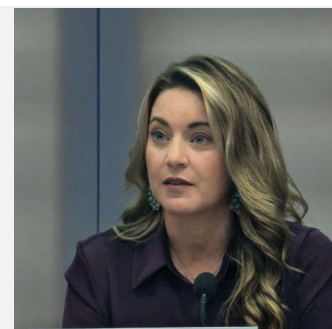


国連機関との継続中の連携活動において、GDP は、世界の食料安全保障、経済発展、気候変動に対する強靱性のための重要な解決策として酪農乳業を強調し続けています。

酪農乳業大使ネットワーク

GDP 酪農乳業大使ネットワークは、主要な国連の会議や世界的な討論会で酪農乳業セクターを後押しするために選ばれた業界の上級リーダーで構成されています。その経験豊富な代弁者らは、農業、食料システム、そして持続可能性、栄養、経済発展における酪農乳業の重要な役割に関する深い専門知識と現実世界に即した洞察を提供しています。

20 名以上の著名な代表者からなる酪農乳業大使は、政策立案者、業界のステークホルダー、国際機関との連携において重要な役割を果たし、世界の食料安全保障、農村での生計、気候問題の解決に対する酪農乳業の貢献が十分に理解され、認識されるようにしています。年間を通して、高度な議論、政策交渉、戦略的イベントに積極的に参加し、持続可能な食料システムの将来における重要なプレーヤーとしての酪農乳業の地位を向上させています。





COP29 における GDP

GDP は、アゼルバイジャンのバクーで開催された COP29（国連気候変動枠組条約第 29 回締約国会議）において、「酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）」で得られた酪農乳業セクターの環境面での進捗を積極的に紹介し、6 件のイベントで講演を行ったほか、メタン排出削減戦略に焦点を当てた公式サイドイベントを開催しました。

主な貢献

- **公式サイドイベント:** 「持続可能な牛肉のためのラウンドテーブル」とウルグアイ政府との共同開催した「酪農乳業・牛肉・米セクターの持続可能な戦略：メタン削減の取り組み」では、畜産と米のセクターにおける、メタン削減戦略、革新的実践や連携活動に関する議論が行われました
- **その他の講演活動:** 食品バリューチェーンの脱炭素化、炭素市場における畜産の役割、食料システムの低メタン化策などの重要なトピックを取り上げました
- **二国間会合:** GDP は、世界的な気候変動対策における酪農乳業の役割を前進させるため、各国の派遣団、国連機関、NGO と 20 件以上の高度な協議を行いました

気候変動の議論における農業の役割のアピール

予想されたように、COP29 では農業と食料への注目は限られていましたが、GDP の関与が、これらの課題がより重要な議論点となることが想定されるブラジルでの COP30 に向けた土台作りとして役立ちました。

GDP がビジネス産業関連 NGO（BINGO）を代表したことで、農業関連の交渉で酪農乳業が意義のある役割を果たしました。GDP がほとんどの交渉で主要な講演枠を確保したことで、酪農乳業セクターと様々なビジネスコミュニティが世界的な気候変動の議論において強力な存在感を発揮しました。

COP29 での GDP の活躍が、酪農乳業の持続可能な食料システムにおける役割と、国際的な気候対策の枠組みの中での排出削減への積極関与を強く印象づけました



酪農乳業の世界的リーダーシップの推進

2024 年、GDP は、主要な国際討論会の場で酪農乳業セクターの重要な貢献の主張を繰り返すことで、持続可能性、食料安全保障、気候変動対策におけるグローバルリーダーとしての酪農乳業の役割を強化しました。国連の関与や COP29 ので交渉から気候週間ニューヨークや業界の協力に至るまで、GDP は、政策の具体化、イノベーションの推進、重要な世界的議論において酪農乳業の声を確実に届けさせる、といったことにおいて最前線に立ち続けました。

GDP は、FAO の「民間セクター諮問委員会」、「持続可能な畜産のためのグローバル・アジェンダ (GASL) 」のための指導グループ、「気候と大気浄化の国際パートナーシップ (CCAC) 」の農業指導委員会などの影響力ある組織において引き続き指導的役割を果たし、酪農乳業界の持続可能性とイノベーションの推進への積極関与を強化しています。

GDP は、ステークホルダーとの関係を構築し、複数のステークホルダーとの同時提携活動を増やし、この業界を代表する酪農乳業大使を派遣することで、持続可能な食料システム、経済発展、排出削減努力における酪農乳業の地位を強め続けています。

GDP は、酪農乳業が解決策の重要な部分として認識されるように取り組んでいます

エビデンスを 提供する

栄養/持続可能性/発展



エビデンスを提供する

栄養:

栄養に優れる牛乳乳製品の適切な摂取を勧めています

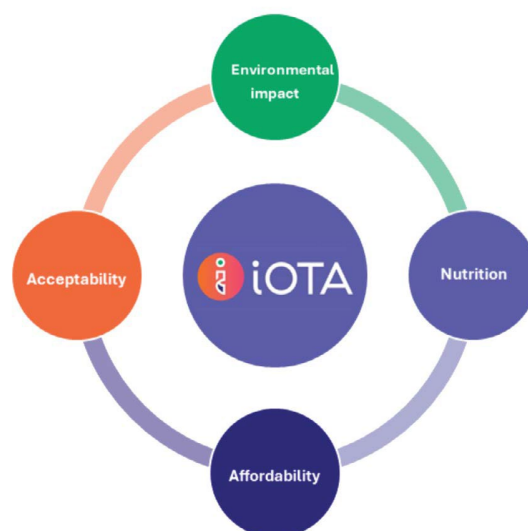
COP29 における GDP

持続可能な食事と食料システム

持続可能な食事は、価格の手頃さ、環境への影響、文化的受容性などに優れているため、人々の健康とウェルビーイングのあらゆる面に貢献します。ニュージーランドのマッセイ大学リデット研究所の持続可能な栄養への取り組みによって作られた iOTA モデルは、栄養の適切さ、環境の持続可能性、手頃な価格、文化的受容性などの持続可能性のあらゆる面で食事を最適化するために設計された画期的なツールです。

酪農研究コンソーシアム (DRC)、アーラ・フーズ社、フォンテラ社から資金提供のもとで GDP が支援した iOTA モデルは、地域のデータを分析に「線形計画法」を導入するものです。ユーザーは、消費者の受

容性を維持する範囲内で食事を変化させることで、どのように手頃な価格、栄養価、環境パフォーマンスを向上させられるかを探ることができます。当初はニュージーランドとオランダのデータに基づいて開発されたこのモデルは、他の地域にも適用することができ、コスト、環境への影響、文化的受容性のバランスがとれた栄養的に適切な食事の推奨を策定するための貴重なリソースとなります。



低コストで栄養に優れる食事における牛乳乳製品の役割に着目した研究

価格の手頃さは、食費支出が世帯収入の 30%を超えることが多い LMICs 諸国では特に、持続可能な食事組成の重要な要素です。GDP は、最も低コストで栄養に優れる食事を特定するため、米国乳製品輸出協会と共同でマッセイ大学リデット研究所の研究を支援しました。

北米、東南アジア、オセアニアでの結果は、牛乳乳製品を含む動物由来食品が、健康に不可欠な栄養素を摂りやすくする一方で食事全体のコストを低減することを示しています。これらの発見は、持続可能な食料システムの枠組みの中で手頃な価格で栄養に優れる食事を実現するのに牛乳乳製品が重要な役割を果たすことを強く示しています。

乳タンパク質

人々の健康のための乳タンパク質の論文発表の支援

タンパク質は、人の食事の基本的な成分の一つです。世界人口が増加し続け、食料生産が気候変動の問題に直面する中、食物タンパク質の質を評価して明確にする必要性がますます重要になっています。これを受けて、2023年にオランダのユトレヒトで開催された「ヒトの健康のための食物タンパク質に関する国際シンポジウム」で発表された25件の研究をまとめた学術論文集がFrontiers in Nutrition 誌から無料で入手できるようになりました。

「ヒトの健康のための食物タンパク質」と題されたこの論文集には、以下のようなトピックに関する一流の専門家からの寄稿が掲載されています。

- タンパク質のアミノ酸含有量、生体利用性および必要量
- 持続可能なタンパク質の生産
- 消化性不可欠（必須）アミノ酸スコア（DIAAS）によって評価された食物タンパク質の質

この完成度の高い評価法により、
体の健康のために必要な適切なアミノ酸摂取量に関する
最新の科学的エビデンスを得ることができます

この論文集からは、食品と新規のタンパク質素材の違いについて、利用可能なアミノ酸の含有量の観点での深い示唆を得ることもできます。これらの記事は、地球の限界に配慮しながら、増加する人口の栄養ニーズを満たすことができる持続可能な食料システムを提唱するための重要な科学的基盤として役立ちます。

このシンポジウムでは、タンパク質の質の重要性と、質を正確に測定するための方法論についてのGDP主導の6年間の研究活動「プロテオス計画」の結果も紹介されました。3大陸の4研究所の研究者によって実施されたこの研究では、動物由来タンパク質が、不可欠（必須）アミノ酸を摂ることができる点で植物由来タンパク質よりも優れていることが再確認されました。



アウトリーチと教育

「成長のための栄養」サミットに先駆けて行われた 「栄養とビジネスに関する対話」での貢献



GDP は、「パリ平和フォーラム」、「栄養改善のためのグローバル・アライアンス」、「栄養アクセスイニシアチブ」が主催したイベント「民間セクター・ワーキング・グループ」の「栄養とビジネスに関する対話」および「マルチステークホルダー円卓会議」に積極的に参加しました。

これらの議論は、2025 年 3 月にパリで開催された「成長のための栄養サミット」に向けて行われたものです。このサミットには、政府、国際機関、研究機関、市民団体、慈善団体、民間セクターを含む多様なステークホルダーが集まりました。参加者は、栄養を「持続可能な開発のためのアジェンダ」の中心的な柱として位置づけるための財政的・政治的関与を提唱しました。

GDP は、これらの対話を通して、栄養の成果を改善するとともに持続可能な開発のための活動を支援する世界的な取り組みに貢献し続けています。

エビデンスを提供する

持続可能性:

酪農乳業が、責任を持っていること、持続可能であると、影響力があることを示しています

PATHWAYS TO DAIRY NET ZERO.

GDP は、IDF（国際酪農連盟）、SAI プラットフォーム、ILRI（国際畜産研究所）、DSF（デーリー・サステナビリティ・フレームワーク）、IFCN（国際酪農比較ネットワーク）と協力して、「酪農乳業ネットゼロへの道筋（P2DNZ）」を通して環境対策を推進し続けています。

P2DNZ は、先進国と新興国の両方の市場における課題に取り組む酪農乳業セクターの気候変動対策の努力を強調しています。先進国市場では、会員の企業や団体が排出を削減するためのさまざまな方法に焦点を当てています。方法には、バイオガス装置や再生農業などの技術を利用した農場でのイノベーションや、継続的に進捗させるための酪農家へのインセンティブが含まれています。GDP は、炭素会計、家畜栄養、乳業加工タスクフォースに関する P2DNZ の作業を主導しています。排出量の約 80%を占める新興国市場では、栄養へのアクセスの向上、社会経済成長の促進、生産性の向上、排出の削減といった酪農乳業セクターの変革のためには投資が不可欠です。

P2DNZ は、2024 年に、持続可能性のリーダーシップに積極参加する 70 以上の企業、業界団体、機関からなる世界的な連合である国連環境計画（UNEP）のビジネス・インダストリー・メジャークループ（BIMG）からグローバル・ビーコン・プロジェクトとして認定されました。

酪農乳業ネットゼロへの道筋

先進国でのワークストリーム

GDP の会員は、**GHG 会計、炭素市場、家畜栄養、乳の処理加工**に焦点を当てた対面会議や専用タスクフォースを通して、重要な戦略的活動に積極的に参加しました。

家畜栄養タスクフォース

本タスクフォースは、次の 3 つの主要分野で世界的な進歩を推進しています。

- 酪農体系の最適化
- 栄養システムの強化
- イノベーションの導入の加速

2024 年 4 月にオランダで開催された対面ワークショップでこれらの重点分野が定められ、2025 年 3 月に 2 回目のワークショップが開催されました。トラウ・ニュートリション社から助成金の支援を受けているこの取り組みは、すべての企業と家畜飼料サプライヤーが参加可能です。



乳の加工処理タスクフォース

2024 年は生乳の受け入れ工程を調査しており、2025 年には他の工程の検討が予定されています。2024 年 5 月にシカゴで開催されたワークショップでは、業界のリーダーたちが、受け入れ、低温殺菌、移送と貯蔵、洗浄システムなどの重要な工程について議論しました。テトラパック社がこの活動を支援するための助成金を提供しており、すべての酪農乳業会社と設備サプライヤーが参加可能となっています。

GHG 会計タスクフォース

本共同活動は、酪農乳業セクター特有のニーズに対応するために、「GHG プロトコル」の「土地セクターおよび除去ガイダンス (LSRG)」に関する重要な知見を提供しています。また、いくつかの分野で作業を開始しました。

- マスバランス/調達地域
- MRV セーフガード
- 土地炭素損失/炭素機会コスト
- バイオガス生産とガイダンスへの対応

最新の重要な進展は、SAI プラットフォーム、および、環境と持続可能性のコンサルタント会社であるクオンティス社とのパートナーシップで、カーボン・インセットのための標準化された「マスバランス追跡管理プロトコル」を確立し、「GHG プロトコル LSRG」に沿って世界の酪農乳業バリューチェーン全体で一貫した方法論を確保することを目的としています。

酪農乳業ネットゼロへの道筋

新興国での活動

世界の酪農乳業からの排出の大部分は新興市場で発生しています。P2DNZ はこれらの地域における持続可能性の変革を推進する上で極めて重要な役割を果たしています。P2DNZ は、米国国務省、グローバル・メタン・プレッジおよび国連食糧農業機関（FAO）の協力を得て、10 カ国に早期導入国としての参加を要請しました。そして、アフリカのタンザニア、ケニア、ルワンダ、ウガンダ、南北アメリカのウルグアイとコスタリカ、アジアのパキスタンとベトナムがこのプログラムへの参加に同意しました。



東アフリカ地域の活動

国際農業開発基金（IFAD）の主導と、FAO、USAID、グローバル・メタン・ハブ（GMH）、GDP の支援により、ケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダを対象とする地域官民畜産セクタープログラムの申請が最終段階に入りました。4 億ドル弱の予算案は、この地域の酪農体系の低排出化と気候変動耐性への移行を支援するもので、2025 年 7 月に「緑の気候基金（GCF）」の理事会で審査される予定です。



ラテンアメリカでの拡大

ラテンアメリカ開発銀行「CAF」の主導と、FAO と GDP の支援により、コスタリカとウルグアイのための計画文書の作成が進められています。承認されれば、東アフリカのプロジェクトと同様のモデルに従って、GCF 理事会への正式な提出書類を作成します。



パキスタンプロジェクトの開始

2024 年 5 月、GDP、USAID と国家農村支援プログラム（NRSP）は、イスラマバードで「低排出・気候耐性酪農乳業生産性向上プロジェクト設計ワークショップ」を開催しました。このワークショップの開催により、NRSP が GCF の最初の承認に向けた計画文書の作成を主導することに合意し、パキスタンの酪農乳業セクターにおける変革的な活動が始まることになりました。

結論

P2DNZ 活動は、持続可能で低排出の酪農乳業セクターを支援しつつ、先進国と新興国の双方での進展を加速させ続けています。P2DNZ は、世界的な認知、投資の増加、協調的リーダーシップにより、強靱で気候変動に配慮した酪農乳業の未来への道を切り開いています。

炭素市場

GDP は、ゲイツ財団からの資金提供を受け、畜産業者が温室効果ガス排出量の削減のために炭素市場に参加するのに解決すべき課題を調査しています。

GDP は、この活動の一環として、世界の炭素市場における畜産体系の状況を評価するための一連の地域会議を主催しています。GDP と国際畜産研究所 (ILRI) は、マッキンゼー・アンド・カンパニー社の支援のもとで、2024 年 11 月にケニアのナイロビで最初の会議を共同開催しました。100 人近くの業界リーダー、研究者、炭素市場のステークホルダーが集まり、以下の議論をしました。

- アフリカの畜産炭素市場の潜在規模
- 家畜の排出を削減するために必要な戦略と行動
- 炭素クレジットをによって農家に利益をもたらす上での障壁

アフリカでの地域会議から得られた重要な知見

- **大幅な排出削減の可能性:** 11 の緩和戦略を実施すれば、アフリカの家畜の排出量を 35~60%削減できる可能性があります
- **主な経済的機会:** アフリカの酪農炭素市場だけでも、2030 年までに年間 44 億 5000 万ドルに達し、酪農家の所得を大幅に増加させる可能性があります。
- **障壁の解決:** その可能性を実現するためには、政策の不備や資金調達の課題に対処するとともに、排出削減の確実な検証が不可欠です。



次のステップ

2025 年中に、GDP は地域の炭素市場活動と協力して、東南アジア、インド、ラテンアメリカで追加の会議を開催します。これらの議論は、2025 年 10 月に開催される世界的な会議に集約され、畜産バリューチェーン全体の組織と主要な炭素クレジット購入者、プロジェクト開発者、検証機関が一堂に会します。目標は、畜産炭素市場の可能性を最大限に引き出すために必要なステップを概説した明確な行動計画を確立することです。

この活動は、炭素市場を活用して気候変動に配慮した農業を推進し、農家の生計を向上させ、より持続可能な畜産業を創出するための重要なステップです。

メタン削減飼料添加物のガイドライン

「農業温室効果ガスに関するグローバル・リサーチ・アライアンス（GRA）」が GDP から資金提供を受けて主導している「飼料添加物フラッグシッププロジェクト」では、メタン削減飼料添加物の開発と採用を加速するための技術ガイドラインを Journal of Dairy Science 誌の 2025 年 1 月号で無料公開しました。

23 カ国の 46 研究機関から 60 人の研究者が参加して作成したこのガイドラインは、成分の同定、動物試験、モデリング、生化学的メカニズム、規制上の承認、炭素会計など、添加物開発の主要な項目を網羅しています。

反芻動物からのメタン排出が気候変動の大きな懸念となっている中、このガイドラインは、科学者、政策立案者、業界リーダーが畜産業界における実用的な気候変動対策として飼料添加物を採用する支援となる世界的な方向性を示しています。



家畜の健康と気候変動の関係の調査

GDP は、環境防衛基金（EDF）およびグローバル・メタン・ハブ（GMH）との協力で、家畜の健康が気候変動に及ぼす影響を測定するための標準化方法を確立する取り組みを進めています。この活動は、FAO、GDP および GRA が、GDP、ニュージーランド農業温室効果ガス研究センターおよび GMH からの投資を得て進めてきた研究が基となっています。

この活動は、
科学に基づくアプローチを政策立案と連携させることで、
世界的な気候目標を支援しつつ
畜産セクターにおける持続可能性の取り組みを強化しています

主な焦点は、家畜の健康への配慮を温室効果ガスインベントリや政策フレームワークに組み込むためのガイドラインの作成です。この測定方法は、GRA 家畜健康ネットワークに深く関連するものです。重要で現実的な示唆が得るために、ケニア、ウルグアイ、ニュージーランドを含む一部の国で試験的に進められる予定です。このプロジェクトは、従来の理論的モデルを実際の状況で検証することで、実行可能な温室効果ガス（GHG）緩和措置としての家畜健康戦略をまだ検討していない他の国々で取り組みを加速させることを目的としています。

デーリー・サステナビリティ・フレームワーク (DSF)

進歩し続けて 10 周年: 調査と報告を開始して 11 年目となる DSF は、世界の酪農乳業セクターの持続可能性の前進を観察し続けています。2023 年に報告対象となった生乳量は、前年比で 36 億リットル増加しました。最優先評価項目として最も多く選ばれたのは家畜飼養で、温室効果ガス排出と農村経済が僅差で続きました。2024 年の年次進捗報告書は、2025 年の第 4 四半期に発表される予定です。

世界各地で接点を増加: 新たな「ステージ 1 パイロット事業」を、ジンバブエ酪農家協会と共に開始しました。「ステージ 1 会員」制度は、持続可能性の活動を開始しようとしているものの DSF の実行手順に必要な資源が限られている DSF 会員を支援することを目的としています。この事業は、DSF の正規実行手順に早期移行できるように活動支援と情報提供をするものです。当新規パイロット事業は、全国酪農開発機構 (NDDB)、ジャールカンド生乳生産者連盟 (ジャールカンド州)、シュリージャ生乳協同組合 (アンドラプラデシュ州) と共同実施している既存活動に基づいています。DSF ステージ 1 会員の事業は、DSF が小規模の新興酪農乳業地域との接点を増やすことで、世界の多様な市場に持続可能性の取り組みへの参加を促しています。

ラテンアメリカにおける持続可能性の推進: GDP は、DSF、パンアメリカン酪農連盟 (Fepale)、米州農業協力機構 (IICA)、ラテンアメリカ開発銀行 CAF の協力を得て、ウルグアイ、コスタリカ、コロンビア、チリを候補とする事業を開始しました。このプロジェクトは、18 カ月をかけて、ラテンアメリカ諸国に個別の持続可能性プログラムを開発するための基盤を構築するとともに、地域の環境と経済の持続的な強靱性を育むことを目的としています。

DSF は、「次の 10 年」のスタートを切り、世界中での連携活動、確かな進歩、酪農乳業の持続可能性の活動のための接点の増加を加速させています。DSF は、新興の酪農乳業組織を支援し、地域の持続可能性プログラムを活発化し、家畜飼養、温室効果ガス排出、農村経済などの 11 の DSF 基準から選定した最優先項目に注力することで、酪農乳業セクターの継続的な改善を報告する集約基盤組織としての役割を果たしています。世界中の各種活動に参加し、新たな戦略的パートナーシップを増やすなど、DSF は、持続可能で強靱な未来のための酪農乳業セクターの献身的活動の礎であり続けています。



エビデンスを提供する

社会経済発展のための酪農乳業: 酪農乳業が生計を変革することを実証する

酪農乳業と社会経済発展の報告書

GASL（持続可能な畜産のためのグローバルアジェンダ）の報告書「酪農乳業と社会経済発展：データが示すエビデンスとは？」が、2024年10月にパリで開催されたGDP年次総会で発表されました。この報告書は、酪農乳業セクターが世界の社会経済発展におよぼす影響と「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の達成への直接的な貢献に関する総合的な分析の結果を示しています。

デリー・インパクト・メソドロジー（DIM）のモデルとデータベースを用いて実施されたこの研究は、酪農乳業セクターの成長がもたらす社会経済的な利益に焦点を当てています。GDP、FAO（国連食糧農業機関）、IFAD（国際農業開発基金）、IFCN（国際酪農比較ネットワーク）およびGASLが連携して開発したこのDIMモデルは、酪農乳業セクターの貢献をデータに基づいて評価することを可能にしました。

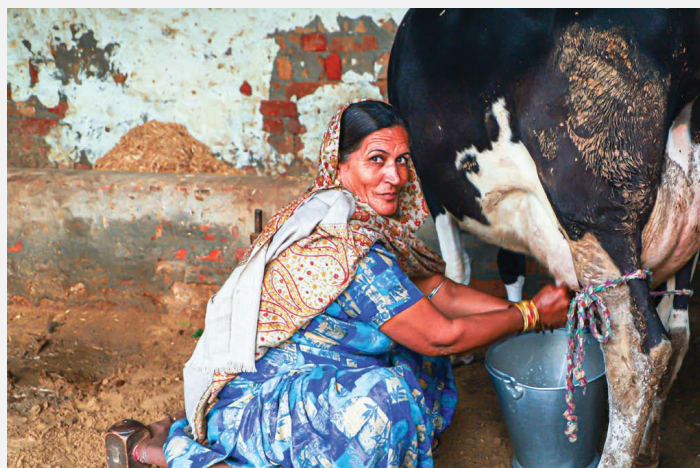
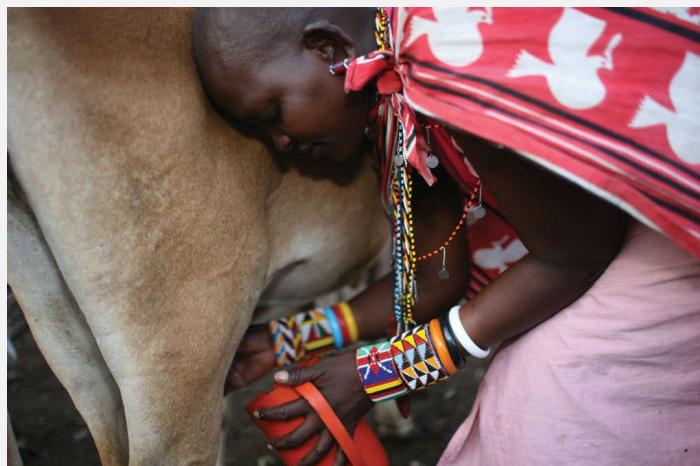
報告書の主な調査結果

- 酪農乳業セクターの変革は、酪農家、雇用、消費者、政府に好影響をもたらし、以下の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に直接的に貢献します。
 - > 貧困をなくそう（SDG1）
 - > 飢餓をゼロに（SDG2）
 - > すべての人に健康と福祉を（SDG3）
 - > 質の高い教育をみんなに（SDG4）
 - > 働きがいも経済成長も（SDG8）
- 個体乳量は、酪農家の生活状況の改善と正の相関関係にあります
- 酪農乳業セクターの成長は、栄養に優れた牛乳乳製品へのアクセスを向上させ、消費者にとってより手頃な価格を実現します
- 生乳高生産国の政府は、複数のSDGsに貢献し得る公共サービスを提供する上で、より恵まれた立場にあります



酪農乳業と女性に関する報告書

酪農乳業セクターは、栄養面、環境面、経済面の発展に加えて、ジェンダー平等を推進する上で重要な役割を果たしています。女性と酪農乳業に関する報告書は、2025年に発行される予定です。この報告書では、酪農乳業開発が女性のエンパワーメントにどのように貢献し、ジェンダー平等に関連する多くのSDGsの達成に貢献するかを検証します。



デリー・インパクト・メソドロジー「What If」分析

DIM モデル開発の第二段階の一環として実施された「What If」分析が2024年に完了しました。この「拡張機能」分析により、「酪農乳業と社会経済のデータベース」が完成しました。このデータベースには、酪農家の生計、雇用、消費者、政府の4つの重要な社会領域に関する187カ国のデータと、37,000件以上の観察結果が含まれています。この分析により、酪農乳業セクターの発展と社会経済の発展の間には強い相関があることが明らかになり、世界の開発目標を推進する上での酪農乳業セクターの役割がさらに強まりました。

調査結果をまとめた科学論文の草稿が作成され、インパクト度が高い学術誌への投稿に向けて準備が進められています。この論文が発表されることで、持続可能な開発への酪農乳業セクターの貢献がさらに広く認識されるようになります。

アフリカの酪農乳業開発 (DNA): 包括的で持続可能な酪農乳業開発の推進

アフリカ酪農乳業開発 (DNA) は、世界の酪農乳業セクターと地域のステークホルダーの力を結集した官民連携事業で、強靱性があり、「包括的」で、環境的に持続可能な食料システムを構築することを目指しています。P2DNZ の概念を実証するために GDP によって設立された DNA は、ランド・オレーク・ベンチャー37 社（総合的な酪農乳業開発を推進）とベイン・アンド・カンパニー社（重要な酪農乳業企業の成長と影響力増大を支援）と連携し、酪農乳業の技術的発展を推進しています。

DNA-BILD によるインパクトの拡大

DNA の重要な活動の 1 つである「アフリカの酪農乳業開発－酪農乳業による「包括的な生計」の構築 (DNA-BILD)」は、スウェーデン国際開発協力庁が資金提供する 2 年間のプロジェクトです。タンザニアで進められている DNA-BILD は、酪農家と連携しており、環境的に持続可能で、栄養を改善し、生計を向上させ、「包括的な経済成長」を刺激する企業を育成することで、現地の酪農乳業を発展させています。

DNA-BILD は、以前に成功した試験的事業を拡大したもので、現在は TI3P プロジェクトと連携させて進められており、酪農乳業バリューチェーン全体でその影響力を増しています。主な目的は、資源や機会に制約のあるステークホルダー（特に女性と若者）がタンザニアの酪農乳業の変革に積極的に参加できるように支援することです。

DNA-BILD の主な実績

- 12, 013 人の酪農家が、飼料の改善や糞尿の管理などの気候変動に配慮した技術導入をしました。その中には、テーマ型トレーニングを受けた 5, 513 人の女性も含まれています
- 6, 283 人の女性が、気候変動に配慮した業務方法についての特別なトレーニングを受けました
- 生産性の向上により、牛 1 頭当たりおよび生乳 1 リットル当たりのメタン排出量が減少し、酪農全体の排出量削減に貢献しました



DNA は、気候変動に配慮したイノベーション、能力開発、市場主導型アプローチを統合することで、酪農乳業がアフリカの経済と環境の進歩のための強力な原動力になり得ることを証明しています。

結論: 包括的で持続可能な開発の推進役としての酪農乳業

報告書「酪農乳業と社会経済発展」は、栄養面や環境面の考察とは別の、経済成長、貧困緩和、社会的存在感の強化といった広範な酪農乳業セクターの影響力を強調しています。発表間近の女性と酪農に関する報告書は、女性のための機会を創出し、地域を活性化し、SDGs に向けた包括的な進展を推進する上での酪農乳業セクターの役割をさらに強調するものです。

これらの報告書は、政府、業界リーダー、世界的組織が酪農乳業セクターの持続可能な変革のために投資して人々や経済、地球に長期的な利益をもたらすことを促す説得力あるエビデンスを提供しています。

会員の力を 認識する

GDP は、先を見据えながら、今の勢いを保って、連携を深め、提言活動を広め、COP30 以降の重要な議論に備えてまいります。GDP は、会員主導の組織であり、その業績は、酪農乳業の世界的なリーダーシップを前進させる上で重要な役割を果たしている会員の献身、専門性、協力によって成し遂げられています。

GDP は、会員とともに、科学に基づく戦略、業界全体の関与、持続可能性への揺るぎない注力を軸に酪農乳業セクターのために活動し続け、強靱で、公平かつ気候に配慮した未来に向けて前進してまいります。



グローバル・デリー・
プラットフォーム



グローバル・デリー・プラットフォーム
10255 W.Higgins Road, Suite 820
Rosemont, Illinois 60018-5616
USA
TEL: +1 847 627 3388

Info@GlobalDairyPlatform.com
www.GlobalDairyPlatform.com

グローバル・デリー・プラットフォームは、世界の酪農乳業セクターを代表する非営利の業界団体です。95 を超える主要な企業、組合、協会、科学団体、その他のパートナーが加盟しており、その生乳生産量の合計は世界の生産量の 33%を占めています。GDP は、150 カ国以上で活動を展開しています。

GDP は、2024 年の酪農乳業セクターの発展において果たした会員の役割に感謝します。



グローバル・デリー・
プラットフォーム